

## 事業中評価チェックリスト

番号 35

事業名	土砂災害対策事業 (急傾斜)	路線・河川 ・地区等名	だいりんじ 大林寺(6)	施行 場所	しらたかまちあゆかい 白鷹町鮎貝
評価該当基準	事業中評価実施後5年間を経過した時点で継続中の事業			実施主体	山形県
事業採択年度 目標年度 [当初目標年度] (過年度評価時目標)	H27 R7 [H31] (H35)	全体事業費(進捗度%)	1.8億円 (74.3%)	事業延長等	L=110m
		内工事費	1.6億円 (71.8%)		
		内用地・補償費	0.1億円 (97.0%)	供用延長等	L=44m
		内測試費等	0.1億円		
<b>事業の目的(地域性・特質性)</b> ・本箇所は、白鷹町のほぼ中心に位置し、保全対象として斜面下部に5戸、町道大町神社新町線があり、ひとたび土砂崩壊が発生すれば、大きな被害に及ぶ恐れがある。平成25年7月には、豪雨の影響により、斜面の一部が崩落し、市道に崩落土砂が押し寄せた。このまま放置した場合、崩落箇所の拡大の可能性があるため、本事業において急傾斜地崩壊防止施設を整備することにより、土砂災害防止を図るものである。					
<b>事業概要(主要工事内容)</b> 主要工事:吹付法砕工 A=1,700m <sup>2</sup> , L=110m					
<b>事業の実施状況</b> ・平成27年度に事業採択後に工法検討(設計変更)や、用地取得の問題(財産放棄地)などで事業計画に様々な変更が生じたため、採択後3年間は現地の進捗がなかったが、手続きの完了及び用地問題が解消したこともあり、平成30年度に工事用道路を造成し、平成31年度以降は法砕工の施工を進めている。					
<b>上位計画、その他事業との関係(各上位計画で定めている項目を表すコード)</b> ・第4次県総合発展計画 → 災害に強い強靱な県土づくり[4-1-①] ・やまがた水害・土砂災害対策中期計画 → 重点整備箇所の対策強化[5.2.3-①]					
<b>今後の事業の見通し</b> ・事業用地の取得が完了し、令和7年度の事業概成を目指し、吹付法砕工、水路工等の整備を進める。					
<b>事業を巡る社会経済情勢等の変化</b> ① 国、県の政策や計画の転換等 暮らしの安全・安心に直結する事業であり、政策や計画の転換はなし。 ② 財政状況の変化 令和2年度の豪雨など、大規模な災害が発生していることから、事業箇所数が増加し、1箇所当たりの事業費が減少している。 ③ 事業実施地域の周辺環境の変化 近年、局所的な集中豪雨が多発しており、土砂災害対策の必要性が高まっている。 ④ 地元の協力体制の変化 事業に対する反対者はなく、協力体制は良好である。 ⑤ 利用者見込み者数の大幅な変化 保全対象に変化はない。 ⑥ 代替方策による必要性の変化 斜面崩落から人命を保全する対策として急傾斜地崩壊防止施設の整備が最も有効な手段である。したがって代替方策はなく、事業の必要性に変化はない。 ⑦ その他					
<b>事業の投資効果</b> (凡例) ● 貨幣換算し、費用便益分析における便益(B)に計上している事業効果 ○ 貨幣換算する手法が確立されていないものの、事業により得られる効果の例					
投資効果	●大林寺地区の人家5戸の建物及び人的被害を軽減する。 ○土砂災害に対する不安感を解消し、安心感が向上する。				
社会的割引率	B/C	B/Cの代表的 な分析指標	・総便益の現在価値(B)		
4%	3.3		6.5億円		
2%(参考値)	4.5		・総費用(事業費+維持管理費)		
1%(参考値)	5.5		の現在価値(C) 2.0億円		
<b>●コスト縮減・○代替案等の可能性</b> ●計画時及び工事発注時に工法・資材等の検討を行い、コスト縮減に努めている。 ○コスト、施工性等を総合的に勘案した最適工法であり、代替案はない。					
<b>当初又は前回評価時目標年より延長となる場合の理由(計画どおりの場合は空欄)</b> ・事業内にある相続人不在の財産放棄地となった用地取得の手続きに時間を要したため。					
評価区分	継続 A	評価の理由	目標年次に対し2年遅れとなるが、事業の重要性、地域の要望・協力等を総合的に判断し、継続としたい。		